

## 張明紅

(Zhang Minghong)



華東師範大学 教授

華東師範大学就学前教育学部教授、中国就学前教育研究会幼稚園カリキュラムと教育専門委員会委員。

主な研究テーマは、就学前の子どもの言語教育や社会教育、0～3歳児の発達と教育。

主に、3～6歳児の、物語を整理し自分の言葉で話す能力を育てる研究や、幼稚園での言語教育活動計画の実践研究、上海市の一部の区での0～3歳児の乳幼児教育の現状と対策の研究、国務院による小中学校教員のレベルアップのための教員教育研究、国家ハンドインハンド計画第二期教師モジュール能力作りの研究などを主宰。教育に関する著書多数。

### ホール・ランゲージ理論における個別化した学習環境の創設

教育部によって新しく制定された『3～6歳児の子どもの学習と発達指南』では、子どもの学習と発達の一体性に再度注目し、子どもの発達の個人差を尊重する姿勢を示している。この理念は、継続的な実践のなかで、より良い方法を模索し、より適切なものにしていくものである。そうした流れから、個別化したホール・ランゲージ環境の創設についての研究が生まれている。

ホール・ランゲージ環境は、子どもの聞く、話す、読む、書く、見る能力が相互に補完し合っており、それぞれが融合しながら言語システムを形成し、内容を理解しているという意味で、「ホール (whole)」という言葉が使われている。また、言語教育が日常生活や遊びのなかに実際に取り入れられ、コミュニケーションや表現の役に立ち、学びであると同時に実際に使われるものになる、という意味での「ホール」でもある。それと同時に、家庭と幼稚園が協力し合い、ともに言語環境を創設するという意味での「ホール」でもある。これらの特長は、子どもの発達を一体性のあるものとしてみなすことにある。各分野や各目標を互いに統合させるのがホール・ランゲージ教育なのである。

どの子どもも似たようなプロセスをたどって発達していくが、それぞれの発達のペースや、ある一定のレベルに達するまでにかかる時間が、皆同じわけではない。子どもの発達のプロセスにおける個人差を十分に理解し尊重したうえで、可能な限り個別化した活動によって異なる支援をするべきである。また、子どもが自主的に今のレベルからさらに高いレベルへと発達できるように導ける環境を創設し、それぞれのペースやスタイルで言語能力を向上できるよう、全面的な支援が必要である。